

神戸大学

# 国際人間科学部(仮称) 2017

Faculty of Global Human Sciences, Kobe University



# Global Human Sciences

# 人という始源、地球という舞台。

## グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球的規模の課題に向き合い、「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、国境を越えて解決すべき課題(グローバルイシュー(global issues)と呼びます)が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。



## Contents

方針	04
学部を構成する4学科	05
カリキュラム	06
グローバル・スタディーズ・プログラム	08
[学科紹介]	
グローバル文化学科	12
発達コミュニティ学科	16
環境共生学科	20
子ども教育学科	24
取得可能な資格免許と募集人員	
サポート	29
キャンパスと施設	30

# 方針

## Admissions Policy アドミッションポリシー

### 入学者受け入れ方針

国際人間科学部では、グローバルな社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わる諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

- 1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
- 2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
- 3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生

## Diploma Policy ディプロマポリシー

### 学位授与の方針

国際人間科学部は、グローバルイシューを深い人間理解と他者への共感をもって解決し、「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを教育研究上の目的とする。その達成に向け、本学部では、教育課程を通じて授与する学位に関して、国際的に卓越した教育を保証するため、以下の方針に従って当該学位を授与する。

国際人間科学部規則に定める  
卒業に必要な単位を修得する。

卒業までに、本学部学生が、課程を通じて達成を目指す学修目標は次のとおりとする。

- 1 グローバルイシューを構成する深刻な諸課題を発見する批判的・合理的思考力
- 2 外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析力
- 3 グローバルイシューを異文化理解、人間発達、環境共生の観点から理解する能力
- 4 グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力

# 学部を構成する 4学科

## グローバル文化学科 P12

入学定員：140名  
取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts  
多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐる諸問題を解決する

## 発達コミュニティ学科 P16

入学定員：100名  
取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts  
人間の発達の諸相を理解し、それを支えるコミュニティの在り方を考える

## 環境共生学科 P20

入学定員：80名  
取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts  
共生社会を支える環境の創出と保全を考える

## 子ども教育学科 P24

入学定員：50名  
取得可能な学位：学士(学術) Bachelor of Arts  
学士(教育学) Bachelor of Education  
持続可能なグローバル共生社会を創造する次世代指導者を育成する



# Curriculum カリキュラム

## 学びの特色



**1 文理の枠を超えた広い知的基盤を獲得する**  
 多様かつ複雑な世界的課題に気付き、それを理解し、その解決手法を見出す能力を獲得するために、学部共通科目「異文化コミュニケーション論」「ソーシャルエンパワメント論」「市民科学教育論」「異文化間教育論」などを通じて、多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために不可欠な知識や観点を学んだ上で、文理の枠を超えた広い知的基盤を身に付けていきます。



**2 グローバルに対応可能な確かな発信力をもつ**  
 グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、またICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身に付けます。



**3 課題解決のための基礎的実践技能を学ぶ**  
 グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な実践的スキルを身に付けることを目的に、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握する基本的技能を学ぶための「フィールドワーク方法論」などによって実践的対応力を身に付けます。



**4 実践的なグローバル体験**  
 グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム」を設置します。このプログラムを通して、学生全員が海外での研修とフィールド学修に参加し、実際の学外学修で得た具体的な問題意識や視点を理論的知識に接合して、自らのキャリア形成に役立てます。



**5 多角的視点から専門的知識を身に付ける**  
 「異文化理解」「人間発達」「環境共生」の視点から、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。



**6 アクティブ・ラーニングによる学び**  
 ラーニングコモンズなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置などアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、全ての形式の授業(講義、演習、実験・実習)において、自ら課題を発見し解決する力、発表や議論を行う力を養います。



**7 徹底した少人数対話型授業**  
 多くの科目が少人数対話型の授業形式で実施されています。これにより、教員と学生、あるいは学生同士が積極的に対話を継続することで、自らのテーマが具体性を帯び、ひとりでは気付けない学びを深め、専門性を高めていくことができます。

## 入学から卒業までの履修の流れ



# Global Studies Program

グローバル・スタディーズ・プログラム



グローバル・スタディーズ・プログラム (Global Studies Program : GSP) とは、グローバルイシューを実体験を通して学ぶことを目的とし、学生全員が海外研修とフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外の多くのフィールドで実施されるプログラムへの参加を通じて、みなさんが将来、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。

## グローバル・スタディーズ・プログラムの特色

1	自らが学びの場を選択する	学生一人ひとりの専門性と希望に応じて、3つのグローバル・スタディーズ・コース(「GSコース」と呼びます)「留学型GSコース」、「実践型GSコース」、「研修型GSコース」が用意されています。それぞれのコースでは、多様な期間と内容を備えた海外留学、語学研修、インターンシップ、スタディツアーや、海外・国内の様々な地域で行われるフィールド学修の機会が設けられています。
2	自らが課題を設定する	グローバル・スタディーズ・プログラムは、事前学修、海外研修とフィールド学修、事後学修から構成されます。事前のオリエンテーションにおいて自らがフィールド学修での具体的な課題を設定し、海外研修と国内外でのフィールド学修に参加します。さらに、それらの体験を通して得た問題意識や実践的な知識を、グローバル社会の諸問題の解決に活かします。
3	自らの能力を伸ばす	グローバル・スタディーズ・プログラムを通して、問題解決のために必要な異文化理解・適応能力、課題発見能力、コミュニケーション能力、ネットワーク形成力、専門知識の実践応用力、他者と協働しつつリーダーシップを発揮する知的行動力を身に付けます。

## グローバル・スタディーズ・プログラムの流れ

グローバル・スタディーズ・プログラムは、事前学修、グローバル・スタディーズ・コース、事後学修の3つのステージで構成されます。グローバル・スタディーズ・コースでは、「留学型GSコース」「実践型GSコース」「研修型GSコース」のいずれかを選択します。



## グローバル・スタディーズ・コース (GSコース) の概要と具体例

各GSコースの内容を紹介します。ここで挙げた具体例はごく一部で、他にも多彩なプログラムが用意されています。

### ■留学型GSコース

海外の協定校への中期または長期留学を行い、さらに現地でフィールド学修を行います。このコースでは、中期または長期の海外滞在を通して、異文化環境への適応力、フィールド学修の自主的な企画・実施力を身に付けます。協定校一覧は10ページをご覧ください。協定大学で取得した授業単位は、神戸大学の単位に組み入れることができます。

研修のタイプ	研修先	内容	期間
交換留学	ジョージア大学 (アメリカ合衆国)	正規授業履修(英語力に関する条件あり)	1年
中期留学	ブロック大学 (カナダ)	英語研修の受講、 及び、正規授業履修(英語力に関する条件あり)	4ヶ月
夏期英語研修	トロント大学 (カナダ)	英語研修の受講(午前)、 及び、ボランティア活動とフィールドワーク(午後)	4週間

### ■実践型GSコース

海外において短期的なスタディツアーまたはインターンシップに参加します。このコースでは、特定の課題に取り組むことにより、他者と協働できる力を身に付けます。

研修のタイプ	研修先	内容	期間
スタディツアー	ナポリ東洋大学 (イタリア)	日本学科の学生と合同ゼミを行い、 地中海地域の移民問題についてディスカッション	9日
スタディツアー	インドネシア 南スラウェシ州	マングローブの植林、環境調査 (学生自らが課題を設定し計画を立てる)	11日
スタディツアー	マケレレ大学 (ウガンダ)	社会科学部の学生とディスカッション、 NGOの活動現場視察	15日
スタディツアー	ベルリン自由大学 (ドイツ)	ドイツの文化政策に関する合同ゼミや講義、 各種アートプロジェクトに関するフィールドワーク	11日
インターンシップ	アメリカ合衆国 ワシントン州シアトル	兵庫県ワシントン州事務所、 英語による兵庫県PRの企画・運営補助、文資料作成	25日

### ■研修型GSコース

海外において短期的な語学研修またはサマースクールに参加し、さらに国内においてフィールド学修を行います。このコースでは、短期的な海外滞在を通して、課題を発見し、比較する視点を身に付け、広い視野から国内のグローバルイシューに取り組んでいきます。

研修のタイプ	研修先	内容	期間
海外語学研修	ウィニペグ大学 (カナダ)	英語研修の受講	2週間
サマースクール	タマサート大学 (タイ)	タイ語学修、タイ文化・芸術を学ぶ	2週間
国内フィールド学修	神戸大学 ヒューマン・コミュニティ 創生研究センター	子育て支援活動の企画・実践	3ヶ月 (週1回)

## 主な協定校

本学部は、現在、海外の約70校の大学と学術協定を結んでおり、本学部の学生は、グローバル・スタディーズ・プログラムを通して、これらの大学へ留学が可能です。

国・地域	教育研究機関		国・地域	教育研究機関
インドネシア Indonesia	ガジャマダ大学		オランダ Netherlands	ライデン大学
韓国 Korea	ソウル国立大学校 釜山国立大学校 済州国立大学校	ナザレ大学 公州教育大学校	スペイン Spain	バルセロナ自治大学
タイ Thailand	タマサート大学		チェコ Czech	カレル大学
台湾 Taiwan	国立政治大学 国立台湾大学		デンマーク Denmark	オーフス大学
中国 China	華東師範大学 上海交通大学 中国人民大学 北京外国語大学 浙江大學	清華大学 中央民族大学 武漢大学 北京師範大学 香港大学	ドイツ Germany	トリーア大学 ハンブルク大学 ベルリン自由大学 マルティン・ルター大学 ハレ・ヴィッテンベルク ライプツィヒ大学
ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学人文社会科学大学ホーチミン校		ノルウェー Norway	ベルゲン大学
フィリピン Philippines	アテネオ・デ・マニラ大学 サンペーダ大学		フィンランド Finland	ヘルシンキ大学
オーストラリア Australia	カーティン大学 西オーストラリア大学	クイーンズランド大学	フランス France	グルノーブル第3大学(スタンダール) パリ・ディドロ(第7)大学 パリ西ナンテール・ラデファンス(パリ第10)大学 パンテオン・アサス(パリ第2)大学 フランス高等師範大学 リヨン人文学校 リール第3大学 レンヌ第1大学
アメリカ合衆国 United States	ジョージア大学 テネシー大学 ニューヨーク市立大学 クイーンズ校 ピッツバーグ大学 メリーランド大学 ユタ州立大学		ブルガリア Bulgaria	ソフィア大学
カナダ Canada	オタワ大学 ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ		ベルギー Belgium	サンルイ大学 ルーヴェン大学
英国 United Kingdom	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ シェフィールド大学 パーミンガム大学 マンチェスター大学 ロンドン大学東洋アフリカ研究学院		ポーランド Poland	ヤゲウォ大学 ワルシャワ大学
イタリア Italy	ヴェネツィア大学 ボローニャ大学	ナポリ東洋大学	リトアニア Lithuania	ヴィリニウス・ゲディミナス工科大学
オーストリア Austria	グラーツ大学		ルーマニア Romania	バベシュ・ボヨイ大学
			ロシア Russia	ベンザ州立建築建設大学

## 交換留学生との交流

本学部では協定校から年間40~50人の交換留学生を受け入れます。本学部キャンパスにおいて留学生とともに学び交流を深めながら、様々な異文化に触れていきます。また、本学部では、海外からの留学生に対して在学学生によるチューター制度を用意しています。チューターは、異なる環境で勉学を続ける留学生の勉学・研究に関するサポートだけでなく、言葉の補助や日常生活全般に関わるサポートをします。この制度を通して、交換留学生との交流を深め、異文化について理解を深めることができます。



# Departments 学科紹介

Global  
Cultures

Human  
Development  
and  
Community

Environment  
and  
Sustainability

Child  
Education

グローバル文化学科

発達コミュニティ学科

環境共生学科

子ども教育学科



# グローバル文化学科

## Mission ミッション

国境を越えたコミュニケーションを推進できる  
リーダーシップを備えた人材を育成する

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、文化、社会、コミュニケーションを軸に「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」の3つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバルイシューを解決する糸口を探していきます。

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを発揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業のほか、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫県国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

## Points 学びの特色

- 1 高い専門性とリーダーシップを備えた人材を養成する**  
本学科の軸となる3つの柱「グローバル文化形成」「グローバル社会動態」「グローバル・コミュニケーション」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。
- 2 多彩な学際的カリキュラムを通して、専門的能力を身に付ける**  
それぞれの専門的能力を、受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用して修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、卒業論文については「グローバル文化特別演習」を設定し、論文指導教員よりきめ細やかな指導を受けて学修成果の総仕上げを行います。
- 3 「留学したい」を後押しする、長期留学をサポートするカリキュラム**  
選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、一年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。

## Programs グローバル文化学科が展開する3つのプログラム

- グローバル文化形成プログラム**  
今日の世界に存在する多様な文化と価値観が、どのような過程を経て形成され、また相互の交流・摩擦・征服等を通じていかに変容してきたのかを正確に把握し、我が国との相互比較的な視点も交えた文化的理解ができる力を身に付けます。
- グローバル社会動態プログラム**  
情報・資本・人・モノの活発な移動とともに社会が急速にグローバル化しているという現代的動態に焦点を当て、グローバル社会が直面する重要な諸課題を解決するために何が求められているのかを分析し、発信する能力を身に付けます。
- グローバル・コミュニケーションプログラム**  
言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

## Curriculum

1年次		2年次		3年次		4年次		
<b>教養科目</b>	情報基礎科目 健康・スポーツ関連科目	外国語	基礎教養科目	総合教養科目	高度教養科目			
<b>学部共通科目</b>	GSP (08ページ) グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習		GSP (留学期GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)		GSP演習科目(リフレクション)			
<b>基礎・発展科目</b>	[学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論 市民科学教育論	[学部共通]発展科目 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)	[学部共通]基礎科目 国際コミュニケーション演習 コミュニティ創成論 TOEFL演習	[学部共通]発展科目 TOEIC演習 イタリア語入門 コリア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	Academic Communication (英) Academic Writing (英) Academic Communication (独、仏、中、露) Academic Writing (独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan	日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 インターンシップ実習	フィールドワーク実習 外国語実習 途上国農村地域開発論 English Presentation Skills English for Professional Purposes	
<b>共通科目</b>	情報科学概論 グローバル・ヒストリー グローバル化と現代世界 Oxbridge English Summer Camp 1	先端科学社会文化論 (JAXA) 日欧比較セミナーI 日欧比較セミナーII Aspects of EU Culture and Society (Lecture) Aspects of EU Culture and Society (Seminar)	Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication Oxbridge English Summer Camp 2 EUエキスパート人材養成プログラム特別講義 日本語・日本事情演習	グローバル文化特別演習 Oxbridge English Summer Camp 3 日欧比較セミナーIII	グローバル文化特別演習			
<b>コア・展開科目</b>	日本社会文化論 中国社会文化論 環大西洋文化論 文化政策論 文化人類学 現代社会理論 国際関係論 近現代社会思想論 現代IT入門 非言語コミュニケーション論 第二言語習得論 グローバル文化形成基礎演習A,B グローバル社会動態基礎演習A,B グローバルコミュニケーション基礎演習A,B	<b>グローバル文化形成プログラム</b> 日本歴史文化論 日本メディア文化論 日本文化交流論 日本思想文化論 近現代アート論 近現代文化言説論	<b>グローバル社会動態プログラム</b> 近現代政治思想論 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 比較民族学	<b>グローバルコミュニケーションプログラム</b> コミュニケーション表現論 翻訳コミュニケーション論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション比較論	東南アジア政治文化論 ロシア・東アジア社会文化論 ヨーロッパ社会文化論 ヨーロッパ文化形成論 アートマネジメント論 東欧・ロシア社会文化論	英米テキスト文化論 近現代モード論 表象文化形成論 近現代表象文化論 視覚文化論 文化翻訳論	比較文化論 宗教文化論 科学技術文明論 グローバル文化形成基礎演習C,D グローバル文化形成発展演習A,B	グローバル文化形成発展演習C,D グローバル社会動態基礎演習C,D グローバル社会動態発展演習A,B グローバルコミュニケーション発展演習C,D グローバルコミュニケーション基礎演習C,D グローバルコミュニケーション発展演習A,B
<b>卒業研究</b>								



グローバル文化形成

- 青島 陽子 講師 歴史学、東欧・ロシア史
- 朝倉 三枝 准教授 近現代服飾史、フランス文化論
- 池上 裕子 准教授 第二次世界大戦後の美術史、現代アート
- 石田 圭子 准教授 美学・芸術論・表象文化論
- 板倉 史明 准教授 映画学
- 伊藤 友美 准教授 東南アジア地域研究、タイ、現代仏教、女性
- 井上 弘貴 准教授 政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史
- 岩本 和子 教授 フランス語圏文学、芸術文化論
- 王 柯 教授 近代思想史(中国の民族問題、民族主義と日中関係)
- 長 志珠絵 教授 日本近現代史、文化史、ジェンダー史、歴史認識
- 小澤 卓也 准教授 中央アメリカ近現代史と世界の食文化史
- 辛島 理人 准教授 経済史、文化政策、日本・東南アジア関係
- 北村 結花 准教授 比較文学・比較文化
- 窪田 幸子 教授 文化人類学、先住民研究

- 昆野 伸幸 准教授 日本の思想の歴史的研究
- 坂本 千代 教授 フランス文化学、フランス文学
- 貞好 康志 教授 東南アジアの歴史・社会・文化の研究
- 谷川 真一 准教授 社会学、現代中国研究
- 塚原 東吾 教授 科学技術医学史、蘭学とEUテックノ政治学
- 寺内 直子 教授 民族音楽学、日本音楽史
- 遠田 勝 教授 比較文学・比較文化
- 西谷 拓哉 教授 アメリカ文学、アメリカ映画
- 野谷 啓二 教授 英米文学、キリスト教文化
- 萩原 守 教授 アジア史、アジア法制史
- 藤野 一夫 教授 音楽文化論、文化政策、アートマネジメント
- 松家 理恵 教授 イギリス文学・思想
- 山澤 孝至 准教授 西洋古典学、ギリシア・ラテン文学
- 吉田 典子 教授 フランス近代の美術と文学、社会文化史

グローバル社会動態

- 青山 薫 教授 社会学、ジェンダー、移住・移民
- 石森 大知\* 准教授 文化人類学、オセアニア研究
- 市田 良彦 教授 社会思想史、フランス現代思想
- 上野 成利 教授 政治思想・社会思想史
- 梅屋 潔 教授 社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学
- 小笠原博毅 教授 カルチュラル・スタディーズ
- 岡田 浩樹 教授 文化人類学、異文化間関係、宇宙人類学
- 近藤 正基 准教授 比較政治学、比較福祉国家、現代ドイツ政治
- 齋藤 剛 准教授 文化人類学、中東研究
- 坂井 一成 教授 EUの対外関係、移民・難民問題
- 阪野 智一 教授 比較政治学、現代イギリス政治
- 櫻井 徹 教授 法哲学
- 柴田 佳子 教授 文化人類学、カリブ/英国/北・中南米研究
- 應 茂 教授 社会学史・社会理論
- 中村 覚 准教授 国際政治、中東政治、平和・安全保障
- 西澤 晃彦 教授 社会学、貧困、社会的排除、都市
- 朴 沙羅\* 講師 エスニシティ、移民
- 安岡 正晴 准教授 現代アメリカ政治、比較公共政策

※着任予定

グローバル・コミュニケーション

- Albin Aaron\* 講師 第2言語習得
- 大月 一弘 教授 インターネットやICT利用方法の研究
- 康 敏 教授 情報科学、教育工学
- 清光 英成 准教授 ソーシャル・コンピューティング、データ管理、教育情報システム、社会情報システム
- 定延 利之 教授 言語学・コミュニケーション論
- 田中 順子 教授 第二言語習得理論、応用言語学
- 西田 健志 准教授 コミュニケーションのユニバーサルデザイン
- 林 良子 教授 音声学・外国語、異文化コミュニケーション
- 藤瀧 文子 教授 翻訳理論
- 松本絵理子 教授 認知心理学、認知神経科学
- 水口志乃扶 教授 言語学
- 村尾 元 教授 社会システム科学、機械学習、人工知能
- 森下 淳也 教授 情報科学、マルチメディアデータ処理、データベース
- 山本 真也 准教授 心理学、比較認知科学、動物心理、社会心理
- 湯淺 英男 教授 言語学、ドイツ語学、日本語学
- 米本 弘一 教授 修辞学(レトリック)

※着任予定



青島 陽子 講師 歴史学、東欧・ロシア史

ウクライナでの政変と紛争は記憶に新しいところです。私自身、情勢が急転中、当地へ調査に赴きました。私の専門は歴史学で、特に19世紀中葉のクリミア戦争後にロシアが西欧諸国を模して改革を進める時代を研究しています。この時期、現在のウクライナ・ベラルーシの地では、ロシア・ポーランド・現地知識人の中でナショナルな衝突が生じ始め、そのことがロシア帝国全体のナショナルリゼーションを招いていました。こうした歴史的知識は、現代の紛争の原因を直接に説明しませんが、その文化的背景を理解する手掛かりとなります。現代社会の諸問題に対する時、自分の基準で誰かを断罪するのではなく、多様なアクターの行動の背後にある独自の論理を理解することが大切です。私はその課題に歴史的アプローチで臨んでいます。

山本 真也 准教授 心理学、比較認知科学、動物心理、社会心理

よく「チンパンジーの人」と呼ばれています。以前は、人よりチンパンジーと接するほうが多いような生活をしていました。最近は類人猿だけでなく、身近にいるイヌやウマでも研究しています。彼らの心を理解する、心理学と生物学を合わせたような学問分野です。そんな私ですが、究極の研究テーマは「人間とは何か」を知ることです。主なキーワードは、共感・他者理解・協力・文化・戦争。なぜ人は協力しあうかと思えば、殺しあったりもするのでしょうか。どうすればよりよい社会が築けるのでしょうか。答えは簡単には見つかりません。答えがあるのかどうかもわかりません。そこに研究の面白さがあるのです。わからないことをひとつひとつ解明していく楽しさを神戸大学で一緒に味わいましょう。





# Human Development and Community

# 発達コミュニティ学科

## Mission ミッション

### 人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成する

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティを実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定します。

## Points 学びの特色

### 1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

### 2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

### 3 国内外の海外研修、フィールドワークを通じて実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

## Programs 発達コミュニティ学科が展開する5つのプログラム

### 社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題を発見する能力、エンパワメントに対する理解力、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、社会エンパワメントを通してグローバル課題を解決へと導く専門的能力を身に付けます。

### 心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身に付けます。

### アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、人の心身や運動行動を理解・分析する基礎的能力、心身の健康やエイジング、スポーツ活動などに関わる実践的な専門的能力を身に付けます。

### ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

### アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化芸術の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、美術の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

## Curriculum

### 1年次

### 2年次

### 3年次

### 4年次

教養科目		情報基礎科目	健康・スポーツ関連科目	外国語	基礎教養科目	総合教養科目	高度教養科目					
学部共通科目	GSP (08ページ)	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習		GSP演習科目(オリエンテーション)		GSP(留学期GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース)		GSP演習科目(リフレクション)				
	基礎・発展科目	[学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論 市民科学教育論	[学部共通]発展科目 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)	[学部共通]基礎科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習	[学部共通]発展科目 コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 ロシア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門	Academic Communication (英) Academic Writing (英) Academic Communication (独、仏、中、露) Academic Writing (独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan	日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習	English Presentation Skills English for Professional Purposes 途上国農村地域開発論				
共通科目		発達コミュニティ概論						発達コミュニティ演習				
学科専門科目	コア・展開科目	プログラム選択	からだの構造と機能 運動の巧みさの科学 運動とこころの科学 加齢の認知心理学 心理学の基礎と歩み 創造の発想とプロセス 社会教育計画論 エスノミュージコロジー 音楽文化史 人とアート論 文化政策論 発達心理学 心の発達と教育 地域社会学 コミュニティ論	社会エンパワメントプログラム	健康心理学 スポーツプロモーション論 アートマネジメント論	コミュニティと表象 身体表現論 ミュージックセラピー	コミュニティ共生教育論 コミュニティ・ジェンダー論 青年心理学	家族の発達と病理 加齢の社会心理学 人と音楽	コミュニティとメディア ライフコースの心理学	ヘルスプロモーション ファッション文化論	社会教育課題研究 (リスクコミュニケーション論、ボランティア学習論、 ジェンダー問題学習論、障害共生教育論)	心理学的援助支援
			心の探究プログラム	心理学調査法 健康心理学 心理グローバルリサーチ ミュージックセラピー	心理学統計法 心理学実験法 心理学観察法 生理心理学	深層心理学 発達アセスメント 青年心理学 臨床心理学	認知発達心理学 児童の発達と学習 初等学校カウンセリング	心理面接論 家族の発達と病理 加齢の社会心理学	心理学研究実践 臨床投影法 心理テスト法 ライフコースの心理学	人格心理学 人格心理学演習 臨床心理学演習 中等学校カウンセリング	心理学的援助支援	
			アクティブライフプログラム	加齢の身体運動科学 健康心理学 環境保健学 スポーツプロモーション論 身体運動の文化史	身体表現論 コミュニティ共生教育論 心理学統計法 認知発達心理学 身体機能の適応	健康運動科学 身体運動のダイナミクス 運動方法学 精神生理学 公衆衛生学	身体マネジメント研究 トラック&フィールド実習 セーフティプロモーション論 加齢の社会心理学 自然体験活動実習	スイミング& アクアティックススポーツ実習 コンテンポラリーダンス ボールゲームズ実習	コミュニティと音楽 身体運動科学実験 バイオメカニクス実験 JUDO実習 ジムナスティクス実習	ヘルスプロモーション 健康教育論 スポーツマネジメント スポーツコミュニティ形成論 社会教育課題研究(障害共生教育論)		
			ミュージックコミュニケーションプログラム	アートマネジメント論 サウンドデザイン ミュージックセラピー	コミュニティ共生教育論 人と音楽 声の表現	ミュージックセオリー &アナリシス シアトリカル・アート論	ピアノ演奏演習 民族音楽演奏演習 声楽表現演習	音楽集団活動論 声楽アンサンブル 器楽アンサンブル	コミュニティと音楽 音楽作品研究 ミュージックプロジェクト実践	声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 社会教育課題研究(ボランティア学習論)		
			アートコミュニケーションプログラム	知覚と行為 アートマネジメント論 コミュニティと表象 空間造形論	絵画アート論 身体表現論 コミュニティ共生教育論 都市と建築の20世紀	グラフィックサイエンス 空間アート実践 絵画アート実践 コンテンポラリーダンス	近現代文化言説論 近現代モード論 近現代アート論	表象文化形成論 視覚文化論	コミュニティとメディア コミュニティと都市 ファッション文化論 アフォーダンス論演習	芸術批評演習 アートプロジェクト実践 幾何デザインと視覚伝達 社会教育課題研究(ボランティア学習論)	映像・メディア論演習	

## 卒業研究



社会エンパワメント

- 稲原 美苗 准教授 ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
- 津田 英二 教授 生涯学習論、障害共生支援論
- 松岡 広路 教授 生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
- 村山留美子 講師 環境保健学、環境リスク学
- 大田美佐子\* 准教授 西洋音楽史、音楽美学
- 岡崎 香奈\* 准教授 音楽療法、即興演奏
- 加藤 佳子\* 教授 健康心理学、健康教育
- 平芳 裕子\* 准教授 表象文化論、ファッション論
- 吉田 圭吾\* 教授 臨床心理学、スクールカウンセリング

※他プログラムとの兼任

心の探究

- 相澤 直樹 准教授 臨床心理学、臨床心理検査(投影法)
- 伊藤 俊樹 准教授 臨床心理学、芸術療法
- 加藤 佳子 教授 健康心理学、健康教育
- 河崎 佳子 教授 臨床心理学、発達臨床心理学
- 齊藤 誠一 准教授 生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学
- 坂本 美紀 教授 教育心理学
- 谷 冬彦 准教授 人格心理学
- 鳥居 深雪 教授 発達障害臨床学
- 林 創 准教授 発達心理学、教育心理学
- 古谷 真樹 講師 睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
- 山根 隆宏 准教授 発達臨床心理学、発達障害児家族支援
- 吉田 圭吾 教授 臨床心理学、スクールカウンセリング

アクティブライフ

- 秋元 忍 准教授 体育・スポーツ史
- 岡田 修一 教授 加齢の身体運動科学
- 片桐 恵子 准教授 社会心理学、社会老年学
- 河辺 章子 教授 運動生理学(身体運動制御)
- 木村 哲也 准教授 身体システム学、応用生理学、バイオメカニクス
- 近藤 徳彦 教授 応用生理学、運動生理学、環境生理学
- 佐藤 幸治 准教授 スポーツ生理・生化学
- 高田 義弘 准教授 運動生理学(身体コンディショニング)
- 高見 和至 教授 運動心理学
- 長ヶ原 誠 教授 スポーツ振興論、国際スポーツ文化論、加齢発達論
- 中村 晴信 教授 公衆衛生学、生理人類学
- 前田 正登 教授 スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学
- 増本 康平 准教授 高齢者心理学、実験心理学、認知心理学
- 山口 泰雄 教授 スポーツ社会学、生涯スポーツ論
- 古谷 真樹\* 講師 睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
- 村山留美子\* 講師 環境保健学、環境リスク学

※他プログラムとの兼任

ミュージックコミュニケーション

- 大田美佐子 准教授 西洋音楽史、音楽美学
- 岡崎 香奈 准教授 音楽療法、即興演奏
- 谷 正人 准教授 民族音楽学、イラン伝統音楽
- 田村 文生 准教授 作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究
- 坂東 肇 教授 器楽(ピアノ、室内楽)

アートコミュニケーション

- 梅宮 弘光 教授 近代建築史
- 小高 直樹 教授 感性科学、図形科学
- 岸本 吉弘 准教授 絵画の創作と研究
- 関 典子 准教授 舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
- 田畑 暁生 教授 社会情報学、映像論
- 塚脇 淳 教授 美術、彫刻
- 野中 哲士 准教授 認知科学、生態心理学
- 平芳 裕子 准教授 表象文化論、ファッション論

相澤 直樹 准教授 臨床心理学、臨床心理検査(投影法)

私たちのゼミでは、心の成長にともなう自己や対人関係に関する問題を幅広く研究しています。とくに対人場面における「傷つきやすさ」を主要な研究テーマとして、いわゆる対人恐怖や自己愛(ナルシズム)の問題を発達の観点と臨床的観点から解明しています。ただし、ゼミの学生には関心のある研究テーマを自分自身で見出すように指導しています。なぜならば、心の探究はそれのようにしてはじめて息の長い取り組みが可能となるからです。また、実際の人々の心から学ぶことも大切なことと考えていますので、研究方法としては調査研究や実践研究を指導しています。また、ロールシャッハ検査法を中心とした心理検査の研究にも取り組んでいます。



長ヶ原 誠 教授 スポーツ振興論、国際スポーツ文化論、加齢発達論

スポーツは地域や社会、人々の人生や関係性を活性化する「力」を引き出し実現させていくためには、「教える」スポーツ指導だけではなく、多くの人々のニーズを把握するための分析力や、プログラムやイベント等の企画力や運営力等に代表される提供側の「支える」能力が必要とされます。ゼミは、スポーツイベントの運営事務局としての企画や運営、自治体のスポーツ振興事業への学術的支援等のゼミプロジェクトに関わりながら、「する」スポーツをいかに「ささえる」かについての見識と専門的能力を深めていく場です。スポーツ振興に関わる理論的知識を習得し、先駆的なスポーツ振興事業を自ら企画・運営・評価しながら、教員と学生が共にスポーツプロモーションを体感し科学していきます。





# 環境共生学科

## Mission ミッション

グローバル共生社会を支える環境を創り出す  
文理融合型人材を養成する

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

## Points 学びの特色

- 1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める**  
1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- 2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける**  
2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 3 海外研修、フィールドワークを通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える**  
専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

## Programs 環境共生学科が展開する4つのプログラム

- 環境自然科学プログラム**  
地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。
- 環境数理科学プログラム**  
環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。
- 生活共生科学プログラム**  
日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。
- 社会共生科学プログラム**  
文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

## Curriculum

	1年次	2年次	3年次	4年次	
<b>教養科目</b>	情報基礎科目 健康・スポーツ関連科目	外国語 基礎教養科目	総合教養科目	高度教養科目	
<b>GSP (08ページ)</b>	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション) ———— GSP(留学期GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース) ————		GSP演習科目(リフレクション)	
<b>学部共通科目</b>	<b>基礎・発展科目</b> [学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論 市民科学教育論 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)		<b>基礎・発展科目</b> [学部共通]発展科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 [学部共通]基礎科目 コミュニティ創成論 [学部共通]発展科目 TOEIC演習 イタリア語入門 コリア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門 Academic Communication (英) Academic Writing (英) Academic Communication (独、仏、中、露) Academic Writing (独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan 日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 English Presentation Skills English for Professional Purposes 途上国農村地域開発論		
<b>共通科目</b>	環境共生学概論 地球環境学	外国語実習、インターンシップ実習、フィールドワーク実習、日本語文法基礎、実践日本語基礎、日本語・日本文化基礎演習			
<b>学科専門科目</b>	<b>基礎・コア・展開科目</b> 物理学入門 力学基礎 電磁気学基礎 連続体力学基礎 熱力学基礎 量子力学基礎 相対論基礎 物理学実験 基礎無機化学 基礎有機化学 生物学概論 生物学各論 基礎地学 線形代数入門 線形代数 微分積分入門 微分積分 数理統計 情報科学 法学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学 外国史 日本史	<b>環境自然科学プログラム</b> 環境物理学 環境物質科学 環境生命科学 環境地球科学 環境基礎科学実験 統計の問題解決法 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 数理科学入門 数理科学基礎	<b>環境数理科学プログラム</b> 数理科学基礎 数理科学入門 統計の問題解決法 計算機科学入門 環境物理学 環境物質科学 環境生命科学 環境地球科学 環境社会学 公害・環境史 環境社会学 環境経済学	<b>生活共生科学プログラム</b> 環境経済学 グローバル都市地域論 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 高齢者環境論 こども環境論 環境社会学 公害・環境史 ライフスタイル論 環境システム設計論 合意形成プロセス論	<b>社会共生科学プログラム</b> 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論 環境システム設計論 環境政策論 環境社会学 環境政策論 社会文化環境論 グローバル平和論 グローバル経済環境史 環境法 環境インフォマティクス 生物多様性科学 環境資源植物科学 環境数値解析 アプライアンス環境論 スマート・ライフサイエンス アプライアンス環境論 スマート・ライフサイエンス 環境政策論 地域景観生態論 生態学 環境生命化学 環境生理学 分子生物学 野外生物学実習 環境システム設計論 環境インフォマティクス 環境システム設計論 食環境論 住環境論 福祉環境システム論 地域空間システム論 地域社会共生論 フィールドワーク実習 国際環境法 労働環境史 地域空間システム論 地域社会共生論 地域復興政策論 地球環境変動史 環境基礎科学演習 多変量解析 実験計画法 環境物理学特別演習 環境基礎科学演習 多変量解析 実験計画法 環境形成科学調査法 環境形成科学実験 環境形成科学演習 環境形成科学実習 福祉環境システム論 フィールドワーク実習 環境形成科学演習 環境形成科学実習

卒業研究



環境自然科学

- |       |     |                |
|-------|-----|----------------|
| 青木 茂樹 | 教授  | 素粒子・宇宙線物理学     |
| 蘆田 弘樹 | 准教授 | 光合成酵素、代謝制御学    |
| 伊藤 真之 | 教授  | 宇宙物理学、科学教育     |
| 丑丸 敦史 | 教授  | 植物生態学、生物多様性科学  |
| 江原 靖人 | 准教授 | 生物有機化学         |
| 大串 健一 | 准教授 | 地球環境、環境地学      |
| 近江戸伸子 | 教授  | 植物環境バイオテクノロジー  |
| 佐藤 春実 | 准教授 | 高分子化学、高分子振動分光学 |
| 高見 泰興 | 准教授 | 進化生態学          |
| 谷 篤史* | 准教授 | 環境物性物理学        |
| 寺門 靖高 | 教授  | 環境地球化学         |

※着任予定

環境数理科学

- |       |     |                   |
|-------|-----|-------------------|
| 稲葉 太一 | 准教授 | 数理統計学、応用統計学、データ解析 |
| 桑村 雅隆 | 教授  | 応用解析学             |
| 阪本 雄二 | 准教授 | 数理統計学             |
| 高橋 真  | 教授  | 情報論理学             |
| 長坂 耕作 | 准教授 | 計算機代数             |
| 宮田 任寿 | 教授  | 幾何学的トポロジー         |

生活共生科学

- |       |     |                          |
|-------|-----|--------------------------|
| 井上 真理 | 教授  | 衣環境学、感性工学                |
| 大野 朋子 | 准教授 | 緑地環境学、造園学                |
| 佐藤 真行 | 准教授 | 環境経済学                    |
| 白杉 直子 | 教授  | 食環境学                     |
| 田畑 智博 | 准教授 | サステナビリティ評価論(環境・都市・エネルギー) |
| 平山 洋介 | 教授  | 生活空間計画                   |
| 福田 博也 | 准教授 | 生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス     |
| 矢野 澄雄 | 教授  | 振動工学、バイオメカニクス            |

社会共生科学

- |       |     |                      |
|-------|-----|----------------------|
| 浅野 慎一 | 教授  | 社会文化環境論、社会学          |
| 井口 克郎 | 准教授 | 社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題 |
| 岩佐 卓也 | 准教授 | 社会政策                 |
| 太田 和宏 | 准教授 | 途上国政治経済              |
| 岡田 章宏 | 教授  | 基礎法学                 |
| 澤 宗則  | 教授  | 人文地理学、地域社会論          |
| 橋本 直人 | 准教授 | 社会思想、社会学史            |
| 山崎 健  | 教授  | 都市地理学                |



丑丸 敦史 教授 植物生態学、生物多様性科学

私たちの生活の近くで人知れず姿を消そうとしている生物が多く存在しています。万葉集で秋の七草として歌われているキキョウやオミナエシ、水田のトノサマガエル、夏の風物詩でもあったホタルの仲間も、かつてはどこでも見られる普通種でした。しかし、これらの生物は急速に日本中で姿が見られなくなり、現在では絶滅が危惧される存在となってしまいました。なぜこれまで人に寄り添うように暮らしてきた生物たちが消えてしまうのか？身近な自然に今何が起きているのか？私たちは水田や半自然草地など人と関係を持ち続けてきた生態系における調査の結果を科学的に解析し、国内外の知見と照らし合わせることでこれらの疑問への答えを探しています。



田畑 智博 准教授 サステナビリティ評価論(環境・都市・エネルギー)

“Think globally, act locally.” 地球規模で発生する環境問題解決には、地域での取り組みが欠かせません。本研究室では、特に環境・エネルギーの視点から持続可能な地域社会を構築することを目的とした研究を行っています。特に日本では、少子高齢化のような世界に先駆けた課題があります。このような課題が環境・エネルギーに影響を及ぼすメカニズムを明らかにし、緩和策を見出すことで、研究成果を政策提言として国内外に発信することを目指しています。具体的な研究テーマとしては、ごみ処理、再生可能エネルギー、ライフスタイル、防災などがあります。また、環境評価やシミュレーションなどの工学的手法や、アンケートや統計処理などの社会科学的手法を組み合わせ、学際的な研究を行っているのが、本研究室の特徴です。

# 子ども教育学科

## Mission ミッション

現代社会の文化的多様性を尊重した  
子ども教育に取り組む人材を養成する

次世代育成を通じたグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行っていきます。

## Points 学びの特色

- 幅広い基礎知識を得て方向性を選択する**  
1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。
- コースごとの学修を通して、高い専門性を身に付ける**  
2年次に、将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。
- 理論と実践の往還を通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える**  
大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

## Courses 子ども教育学科が展開する2つのコース

**学校教育学コース**  
主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基づいて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

**乳幼児教育学コース**  
主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基づき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

## Curriculum

	1年次	2年次	3年次	4年次
<b>教養科目</b>	情報基礎科目 健康・スポーツ関連科目	外国語 基礎教養科目	総合教養科目	高度教養科目
<b>GSP (08ページ)</b>	グローバルイシュー概論 グローバルイシュー演習	GSP演習科目(オリエンテーション) ————— GSP(留学期GSコース・実践型GSコース・研修型GSコース) —————		GSP演習科目(リアフレクション)
<b>学部共通科目</b>	<b>基礎・発展科目</b> [学部共通]基礎科目 初年次セミナー 情報リテラシー演習 協働型リーダーシップ論 異文化間教育論 市民科学教育論 異文化コミュニケーション論 フィールドワーク基礎論 ソーシャルエンパワメント論 国際開発援助論(JICA)		<b>基礎・発展科目</b> [学部共通]発展科目 国際コミュニケーション演習 TOEFL演習 [学部共通]基礎科目 コミュニティ創成論 TOEIC演習 イタリア語入門 コリア語入門 スペイン語入門 ラテン語入門 Academic Communication(英) Academic Writing(英) Academic Communication(独、仏、中、露) Academic Writing(独、仏、中、露) Cultures and Societies in Japan 日本語コミュニケーション フィールドワーク方法論 情報発信演習 プログラミング基礎演習 English Presentation Skills English for Professional Purposes 途上国農村地域開発論	
<b>共通科目</b>	子ども教育学概論 教育原理(世界と日本の学校教育)	国際文化理解教育論 保育原理(世界と日本の乳幼児教育)	子ども教育学演習	子ども教育学演習
<b>学科専門科目</b>	<b>コア・展開科目</b> 教職論 教師入門 教育経営学 発達心理学 初等算数論 初等図工論 乳幼児心理学 保育内容研究(造形表現) 保育内容研究(音楽表現) 保育内容研究(児童文化と言葉) 観察実習I 乳児心理学演習	<b>学校教育学コース</b> 児童の発達と学習 教育行政学 初等カリキュラム論 初等道徳教育論 初等教育方法学 初等国語科教育論 初等理科教育論 初等生活科教育論 初等算数科教育論 初等音楽科教育論 初等体育論	<b>乳幼児教育学コース</b> 乳幼児教育課程論 初等体育論 初等国語論 初等音楽論 保育内容研究(健康I) 保育内容研究(環境) 保育内容研究(人間関係) 保育内容研究(健康II)	<b>卒業研究</b> 観察実習II 発達障害心理学 臨床発達支援学 障害とリハビリテーション 障害児発達学 学校インターンシップI グローバル教育演習(教育行政学) グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(科学教育) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(教育史学) 幼児心理学演習 グローバル教育演習(教育行政学) グローバル教育演習(教育制度) グローバル教育演習(科学教育) グローバル教育演習(教育方法学) グローバル教育演習(教育史学) 乳幼児教育内容・方法論 乳幼児臨床心理学 子どもの保健と健康 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップII 科学教育実践研究 比較教育システム論 西洋教育思想史 比較教育政策論 グローバル教育演習(子どもの保健) グローバル教育文献演習 科学教育実践研究 社会認識実践研究 数理認識実践研究 英語科実践研究 比較教育政策論 グローバル教育演習(子どもの保健) グローバル教育文献演習 科学教育実践研究 社会認識実践研究 数理認識実践研究 英語科実践研究 教育・保育実践演習(児童文学) 教育・保育実践演習(音楽表現) 教育・保育実践演習(造形表現) 教育・保育実践演習(家庭保育) 社会的養護 障害児保育演習 子ども家庭支援論 支援教育システム論



学校教育学コース／乳幼児教育学コース

教員は両コースを担当します

赤木 和重	准教授	発達障害心理学	勅使河原君江	講師	美術教育
伊藤 篤	教授	子ども家庭福祉論	鳥居 深雪	教授	発達障害臨床学
稲垣 成哲	教授	科学教育	船寄 俊雄	教授	日本教育史、教育学
岡部 恭幸	教授	数理認識論、数学教育	目黒 強	准教授	児童文学、国語教育
奥山 和子	講師	日本語教育、留学生教育、異文化間教育	山口 悦司	准教授	科学教育
川地亜弥子	准教授	教育方法学	山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
北野 幸子	准教授	乳幼児教育学、保育学	山下 晃一	准教授	教育制度論
木下 孝司	教授	発達心理学	吉永 潤	教授	社会認識教育論
國土 将平	教授	身体発育発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定	渡部 昭男	教授	教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育)
五味 克久	教授	幼年音楽、リトミック、合唱指揮	渡邊 隆信	教授	西洋教育史、教育哲学



岡部 恭幸 教授 数理認識論、数学教育

子どもが算数・数学がわかるようになるとはどういうことでしょうか。これらの答えを見つけるのは実は簡単なことではありません。私たちの研究室では数理認識の発達と教育についていくつかの研究を行っています。子どもはどのように数理概念をとらえているのでしょうか。さらに、子どもが獲得すべき概念はどのような構造をもっているのでしょうか。また、子どもはそれをどのように獲得していくのでしょうか。子どもたちの「わかり」は、まだまだ解き明かしていくべき「謎」に満ちあふれています。私たちは、研究で得られた知見をもとに、現場の教員とも協力しながら教育内容や方法の開発も行います。子どもの「わかり」を大切に算数・数学教育をともに創っていきます。

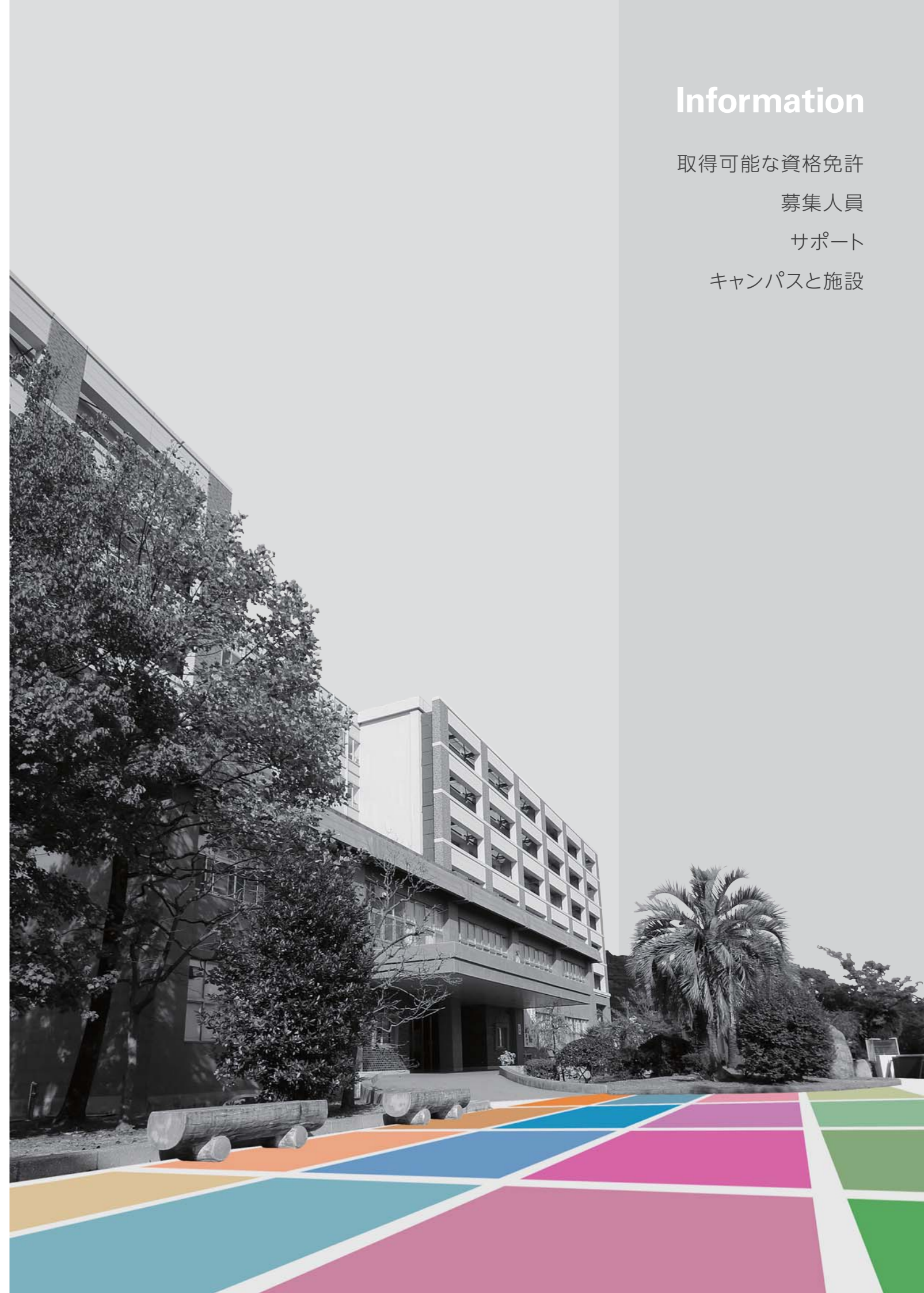
Information

取得可能な資格免許

募集人員

サポート

キャンパスと施設



# 取得可能な資格免許と募集人員

## 取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許*
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種(英語) 高等学校教諭一種(英語)
発達コミュニティ学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種(保健体育、音楽、美術) 高等学校教諭一種(保健体育、音楽、美術)
環境共生学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種(理科、数学、家庭、社会) 高等学校教諭一種(理科、数学、家庭、地理歴史、公民)
子ども教育学科	学芸員 社会教育主事 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

※教職課程認定申請中

## 2017年度学生募集人員

学科	入学定員	一般入試		AO入試	推薦入試	社会人入試	私費外国人留学生入試
		前期日程	後期日程				
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	10名	—	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	身体運動受験 12名 音楽受験 12名 美術受験 8名 身体表現受験 4名	—	若干名	若干名
環境共生学科	80名	文系23名 理系32名	文系 8名 理系12名	5名	—	若干名	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	若干名	若干名

# サポート

## キャリア支援

国際人間科学部では、所属する学生一人ひとりのキャリア形成を積極的に支援していきます。学部が置かれる2つの各キャンパス(鶴甲第1キャンパス、鶴甲第2キャンパス)には、学生のキャリア形成を支援するアドバイザーが常駐するセンターをそれぞれ設置しており、学生が自らの専門性をどのように社会に活かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を実施していく過程を支援します。各センターでは、1年生から4年生まで全ての学生を対象として、キャリア形成支援のための様々なセミナー等の開催を実施しています。



## 留学支援

グローバル・スタディーズ・プログラムにおける学修全般をサポートするために、専門のコーディネーターが所属する「GSPオフィス」を設置し、国内外での研修やフィールド学修に関する相談、海外渡航に必要な申請書の手続きや現地での生活に関する個別の相談にきめ細かく対応します。

また、留学や海外研修に関わる経済的な負担を軽減するため、「神戸大学基金」等による海外研修の助成を含む各種奨学金の申請について情報提供し、具体的にアドバイスします。神戸大学では学生のみさんの海外渡航中の安全を確保するための危機管理体制を構築し、渡航前の危機管理オリエンテーションや渡航中の安否確認等を実施しています。

## 学生生活支援

神戸大学では、充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。

詳細については、神戸大学ウェブサイトの「教育・学生生活」(<http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/>)をご覧ください。

### ■奨学金

本学には、独立行政法人日本学生支援機構(旧日本育英会)、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります(各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給与」とがあります)。

また、奨学金制度以外に、入学金免除、授業料免除(全額免除・半額免除)の制度があります。

### ■学生寮

本学では、修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。学生寮は、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」があります。経済的負担が軽く、学年を超えた多様な学生との集団生活が体験できること、また「女子寮」を除き、日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。

### ■健康

保健管理センターにおいて、健康診断を実施し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。「からだの健康相談」では医師が、健康診断の結果や日常の健康に関する様々な相談を受け付けるほか、学内における救急処置に対応しています。また、「こころの健康相談」ではカウンセラー及び医師が、様々な悩みや心配、心身の状態について相談を受けています。相談の内容によっては、両方を同時に受診して、心身の悩みに総合的に対応できる体制が取られています。

# キャンパスと施設



端末室



学生センター



総合・国際文化学図書館



コンビニエンスストア



ラーニングcommons



HUB室



ICカフェ



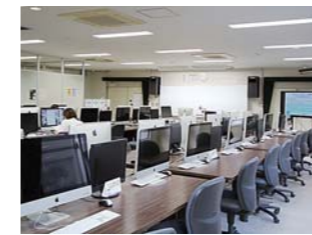
キャリアセンター



学生食堂



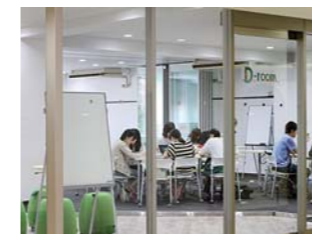
サイエンスショップ



情報処理教育室 (RIE)



キャリアサポートセンター



D-Room



学生食堂



人間科学図書館



心理教育相談室



アクティブエイジング  
研究センター



ヒューマン・コミュニティ  
創成センター (HCセンター)



# Access アクセス



- (16) … 神戸市バス16系統 六甲ケーブル下行  
(36) … 神戸市バス36系統 鶴甲団地行

## ■最寄り駅からのアクセス

### [最寄り駅]

阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅

### ■鶴甲第1キャンパス

神戸市バス16系統「六甲ケーブル下方面」行に乗車、  
「神大国際文化学部前」で下車

### ■鶴甲第2キャンパス

神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗車、  
「神大発達科学部前」で下車



神戸大学 国際人間科学部 (仮称) 設置準備室

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

TEL 078-803-6672

<http://www.kobe-u.ac.jp/>